

# 文化の仲間

京浜協同劇団と共に歩む文化の仲間 会報 No.60 2012年5月26日発行  
川崎市幸区古市場 2-109 京浜協同劇団内 TEL 044-511-4951 郵便振替 00250-3-18369

## 原発銀座・若狭から、フクシマをくりかえさせないために

——「中島哲演さんを川崎に招く」実行委員になって

笹岡 敏紀

「スペース京浜」の床一杯に、膝を接するように座る130人を超える人・ひと。その頭上に、40人の合唱隊が歌う「若狭の海よ」（笠木透作詞・安達元彦作曲）が響きわたる。そして、遠く福井県小浜市からこの日のために来てくださった、古刹・明通寺の住職中島哲演さんの静かな語り口の中にも厳しさを秘めた講演が始まる。70分にわたって語られた「反原発」の



思想と「若狭の地の人びと」の闘いの苦難の歴史の話は、それに聴き入る一人ひとり胸の底にきりきりと突き刺さっていったらう。演題は「原発銀座・若狭から、フクシマをくりかえさせないために」

去る5月6日（日）、折しもこの国ですべての原発が止まった翌日であったが、「原発はいらない。子どものために、未来のために、地球のために 中島哲演さんを迎えて」という「つどい」が京浜協同劇団とこの会の賛同者による実行委員会の手で準備され開催さ



れたのである。

私はその実行委員の一人となった。それは、何よりも「中島哲演さんの話を直に聞きたい」という私自身の強い願いからであった。私がこの人を初めて知ったのは、昨年7月頃の「東京新聞」紙上である。その後、23年前に刊行され今はすでに絶版になっている氏の著書『原発銀座・若狭より』という著書を探し出し、深い感動とともに読んだ。

この「つどい」は劇団が今度の公演で「臨界幻想」（ふじた・あさや作／内田勉演出）を上演するに当たり、その学習企画として計画されたものであったが、私は「中島哲演さんを招く」という発想をするとは夢にも思わなかった。さらに実行委員会での議論の中では、「つどい」の内容がさまざまに膨らんでいった。

「作曲者の安達さんの指導による、歌『若狭の海よ』の合唱隊をつくり『つどい』の中で歌おう」「たつた素子さんとその仲間に『チェルノブイリ 26・APR・1986』を歌ってもらいたい」「安達さんと共に、30年も前から中島さんと交流のある、鈴木たか子さんのピアノと前田みどりさんのバイオリンの演奏は？」「フクシマから子どもを放射能から守るために多摩市に自主避難しているお母さん（星ひかりさん）がいる。詩をつくり、『原発事故』による福島の人びとの苦しみと現状と子どものために立ち上がっている人たちの状況を訴えている」等々。多彩かつ盛り沢山であったが、



## (2) 中畠哲演さんを迎えて



それらの企画案は、すべてこの日の「つどい」に組み込まれた。

「つどい」は3時間余にわたり、終了後の「哲演さんを囲んでの交流会」も2時間近くになった。

氏の講演の内容を要約する術は私にはない。私はただただ「哲演さんの話が聞けてよかった……」と思うばかりである。それはけっして私一人だけではなく、参加者の誰もがそう思ったことであろう。

(文化の仲間会員)

福井、フクシマそしてかわさき

## 今すぐできることを力を合わせて

竹間 テル子

昨年末、私は、一度福井に行ってみたいとの念願かかって、猛吹雪の天気予報にもめげず訪ねることができた。いちばんの目的は「カニ」も含めた日本海の冬の味覚を味わうことだったが、福井には「ゆめみ九条の会（幸区の日吉地域で活動している）」で一緒だった友人が実家のあるおわら市に戻っていたので、いろいろ相談すると、「福井に来るなら原発を見ていってください。美しい海岸線に原発が並んでいるんですよ。」



腹が立ちますよ。」と言われ、二泊目は若狭のラムサール条約で知られる三方五湖のほとりの町営ホテルにした（食事は御食国一みつけくに一若狭づくしといって、フグ・カレイ等々だった）。

そうだ若狭の先の小浜には明通寺がある、そこにも行ってみよう。明通寺は、国の重要文化財である木造深沙大将立像がまつられ、三重塔も国宝という名刹だが、以前、東京新聞の一面を使って、反原発運動を40年にわたって続けてきた反骨の僧侶を紹介しており、その中畠哲演さんが住職をされている寺である。哲演さんにも会いに行こう、と北陸本線小浜線に乗って行ったが、時間配分が悪くとうとう会えずに三方五湖に戻った。

美浜には原子力PRセンター、敦賀には原子力機構アクアトムなどが観光施設のひとつとして案内されていたが、それだけ長い間原発と共存？していたのだろうと察せられた。福井（若狭）は風光明媚、食べ物は美味しい、人々はのんびりと優しい……。原発銀座と



フィナーレは哲演さんも一緒に「若狭の海よ」を合唱

言われているなんてウソのようだった。

今回の企画で中畠哲演さんが福井から来られると聞いて、驚くとともに何か川崎と福井を結ぶ赤い糸のようなものを感じた。だから「若狭の海よ」もぜひ歌ってみたいと思った。中畠さんは説得力ある話し方で反原発運動に関わった歴史の一端を伝えた。坂村さんの詩「あとから来るもののために」を朗読したが、私たちは余生が少ないからまだよい、子どもたちの未来のために頑張るのだという詩のメッセージは、まさしく中畠さんのたたかひの原点なのだろう。

福井で今「大飯原発の再稼働は許さない」と頑張っているゆめみ九条の会の友人も、田植えの真っ最中にもかかわらず新幹線でやってきた。前日まで迷い、当日朝起きて行こうと決めて来たが、本当に良かったと感想を述べていた。

以前この友人は、3.11 原発ゼロへ福井集会で飛ばした風船が5時間後に栃木の佐野市に届いたことが判明したので、福井でもし原発事故が起きたら川崎もた



だ事では済まされないということだ、とメールを送ってきた。

福島から非難してきた星ひかりさんの詩とお話にも心が痛んだ。私も福島いわきの出身で、生まれ故郷には当分戻れない身だからだ。

これ以上の哀しみはもうこりごりだから、「原発なくそう」と今すぐできることを力を合わせてやっつけよう、と強く思った。(文化の仲間会員)



終了後の交流会で

## 緑の休暇村で劇団員・公演参加者と交流会をやってきました

山木 健介

4月21日(土)～22日(日)に、文化の仲間と劇団員・6月公演の参加者など32名で、今が桜が満開だった道志川沿いにある相模原市青根緑の休暇村で交流会をおこないました。

昨年の文化の仲間の総会で「文化の仲間と劇団の交

まだ桜が咲いていました



流レクリエーションをやりたい」との発言があったので、その実現を検討した結果、今回の企画となりました。6月に「臨界幻想」の公演を控えているので、劇団員以外の公演参加者にも声をかけて公演を盛り上げる企画の1つとして交流会開催を計画しました。

休暇村には「やまびこホール」という付属施設があるので、安達元彦さんのピアノ指導のもとに音楽交流をおこないました。公演に向けた学習会としての5月6日中島哲演さん講演会で歌う「若狭の海よ」や劇の中に出てくる「インターナショナル」などなど、そして「文化の仲間のうた」を大きな声で歌いました。“歌は元気になるね”という参加者の感想もあり、元気になっておなかすいて楽しい音楽交流でした。

温泉に入りゆっくりした後の夕食交流では、先輩劇団員から若い世代に何を伝えたいかを話してもらいました。常日頃、若い人に向かって自分を語ることはあ

まりないと思いますが、酒も入ったからか照れも消えて自分の履歴や思いをそれぞれ語っていただきました。参加の若者たちもリラックスしつつ先輩の言葉に耳を傾けていました。さらに宴会場から2次会場に場所を移して語り合いましたが、次々に先輩が寝に消えていく中で若者たちは元気でかなり遅い時間まで交流していました。

劇団員と文化の仲間との交流旅行は、温泉スキーツアー(1997年・98年・99年・2002年の4回)、春の真鶴(2000年)、初夏の藤野町(2007年)とおこなってきました。劇団員との関係が密になりますし、良い宿との出会い、心身のリフレッシュなど楽しい交流旅行でした。毎年は無理ですが、また企画したいと思います。

青根緑の休暇村は酒の持ち込みも自由で、持ち込んだお酒を宴会で飲んでもいいですよと言われ、遠慮なく堂々と持ち込み酒をいただきました。その上ジュース・焼酎をサービスでいただき、料理もおいしく量もあって、温泉もゆったりできて、安い値段で宿泊できました。ただ、朝ぶろに入れないのが唯一の欠点で、宿の人も「百人の方が百人皆さんそうおっしゃいます。



安達さんの指導でいろいろな歌を歌いました



#### (4) 緑の休暇村交流会

温泉修復工事にお金がかかったので、儲かったら朝ぶろもやりたい」とのことでした。何年か後にまた行きたいと思った宿でした。(文化の仲間世話人)

## 交流会と臨界幻想

齋藤 成郎

4月21、22日に相模原青根緑の休暇村で行われた交流会に参加させていただきました。周りは緑に囲まれ、中を川が通り、空気の澄んだとても気持ちのいいところでした。まず休暇村にある音楽ホールで過去に劇団が上演してきたものの中でつかわれていた劇中歌を歌ったのですが、みんなが懐かしいような寂しいような何とも言えないような顔でうたっていたのが強烈に頭に残っています。失礼なことと思いますが、やはり先輩方にも甘酸っぱい青春があったのかと思うとなんだか面白くなって、おもわず笑ってしまいました。夜の飲み会ではありがたい話からスケベな話まで、いろんな話が朝の5時ごろまで続きましたが、一番盛り上がったのはもちろんスケベな話でした。そこで、いくら年が離れていても男である限りエロい話では共通に盛り上がるということを思い知りました。(もちろん、それ以外にも面白く、ためになる話は多くありました。)大谷さんがこけて階段から落ちるというハプニングこそありましたが、とても楽しく参加させていただきました。そして、みなさんのカンパのおかげでこの交流会に参加できました。本当にありがとうございました。

臨界幻想については、今回、速水暁生という大役をやらせてもらうことになりましたが、実は、臨界幻想



のキャストが発表される前の本読みの時点から劇団の先輩方に「今回は覚悟しとけよ」「しっかりやれよ」などと言われていたものですから、ひよっとしたらひよっとするぞ……速水暁生をやるかもしれないと思っておりました。というより勝手にやる気になっていました。いよいよキャスト発表の時、思い通り速水暁生という大役をいただいたのですが、うれしさと恥



ずかしさと不安からかその日の稽古中ずっと小刻みに震えていました。たしかその時隣に稲垣さんが座っていたと思うのですが、自分がビビって小刻みに震えているのがばれないように必死でした。稽古が進み、やはり思うことは、自分以外にも若い客演の人がいるということが支えになり、励みになっていることです。日曜日、大道具製作の日、客演の方(主に女性の方)が来てくれた時の現場の明るさったら今までにないほど、過去に前例がないほど明るかったです。どうやらやはり京浜にはスケベ野郎が多いようです。そうこうしているうちに、本番まで残り1カ月をきりましたが、ここからあと二段階も三段階もレベルアップできるように、後で思い残すことがないように頑張っていきたいと思っています。最後までよろしくおねがいします。(劇団員)

# いよいよ上演まぢか 公演を見て大いに語り合うひとときを

京浜協同劇団 和田 庸子

いよいよ上演まで、1カ月を切りました。これから先は、創造(稽古)に全神経を集中させ、集客目標1100名に向かってチケットを広げる仕事をやりきっていきたいと思います。

1月末の総会でレパを正式決定してから丸4カ月、制作班の方針は大きく2つありました。それは

- (1) 東北大震災と原発事故を経た今、日本の未来と自分の生き方をあらためて問い直しつつ、「反核・反原発」「被災者支援」の一角をなす公演にする。
- (2) 青年劇場「臨界幻想 2011」と連帯し、全国的にも注目されているこの公演を大きく成功させたい。

そのためにやってきたことは、

- ① 3.11 原発ゼロへのカウントダウン IN 川崎集会 (中原公園) に参加。

1月末から実行委員会に複数で加わり、当日はのぼり旗を掲げ、黄色のスカーフをつけて11名が集会・デモに参加。会場の音響も担当しました。劇団の観客が数多く参加した集会をともに成功させることができました。

- ② 学習講演会を3回実施

No.1: 山田征さん (2月20日、40名)、常に「自分は」どう考えるのか、何ができるのかを実践的にとらえ、「できることをやる」その積み重ねが実はすごく大事なのだということを新鮮に教わったような気がします。

No.2: ふじたあさやさん・作者 (3月20日、40名)。今年チェルノブイリに行って事故の「博物館」で見たことを語りながら、涙ぐんでいたふじたさん。行動と情熱の人でした。語り口はわかりやすく、とってもフレンドリーな雰囲気。みんなの心を柔らかくしてくれました。

No.3: 「中野哲演さんを迎えるつどい」(5月7日、約140名) 文化の仲間やピアノ教室の生徒、9条の会の仲間も実行委員になってくださいました。参加者は「いい会でしたネ」「劇団がいろいろな人たちに支えられ、そのことを大事にしていることがよくわかった」、また哲演さんも「心のこもったいい会

でした、文化の力って凄いですね」と感想を寄せてくださいました。被災者・星ひかりさんの訴えも、感動をよびました(詳しくはこの会報の笹岡さん、竹間さんの寄稿をお読みください)。

- ③ 川崎母親大会の実行委員会に再参加

いま、「原発」の問題等を通じて、より広い女性たちと連帯していこうとがんばってる母親運動の一角に復帰し、大いに歓迎されています。

今年のメイン講演は被災後のフクシマの写真撮った郡山総一郎さん。劇団の公演と重なりますが、宣伝などでは協力を約束。

- ④ 反核・反原発文庫の設置

出演者や劇団員の協力で、本が集まりました。(一階)

- ⑤ 「臨界ニュース」を発行

稽古場でのこと、世の中の動き、制作上のお知らせ、さまざまな問題提起を隔日刊で確実に発行しています。デスクは藤井さん、部員は河村さん。張さんも時々。バックナンバーはファイリングされています。

- ⑥ 「原発はいらない 子どものために、未来のために、地球のために」を玄関看板に表示する。

- ⑦ 制作ニュースを作成(城谷さん)、本チラシと共に郵送

- ⑧ 民主団体等へのお願い(集中的オルグ活動)

制作班は、今回新しく坂木さん・河村さんにも入ってもらい、なんと9名の大所帯。仕事を分担し、毎週火曜日の制作班会議を軸に精いっぱい準備をしてきました。

10代から70代まで幅広い出演者が、「原発問題」を正面から描く芝居に、真剣に必死で取り組んでいます。今、たくさんの本やイベントはありますが、演劇の公演はあまり多くはありません。ぜひ、稽古を見に来てください。チケットを買ってください。お知り合いにも声をかけてください。

そして、公演を見ていただいて、大いに語り合うひとときを持ちたいと楽しみにしています。

(公開稽古は特に設けませんが、ご連絡くだされば見学できます)

 京浜協同劇団 第83回公演

## 臨界幻想

作 ふじたあさや 演出 内田勉 制作 和田庸子

日程 2012年6月8日(金) 14:00・19:00 / 9日(土) 14:00・19:00 / 10日(日) 14:00  
6月15日(金) 14:00・19:00 / 16日(土) 14:00・19:00 / 17日(日) 14:00

会場 スペース京浜(京浜協同劇団稽古場)

入場料 前売: 一般 2800円 / 70歳以上 2000円 / 学生 1500円 (当日券は各500円増)

問合せ・申込み 京浜協同劇団 (044-511-4951) keihinkyoudougekidan@nifty.com

ひとりの母親が愛する息子の真実を追い求めた

今、私たちに出来ることは何だろう？  
子どものために 未来のために  
地球のために



◎文化の仲間通信◎

◆ザ・ブラザーズ・フォア

ゴールデン・アニバーサリー ジャパンツアー 2012

日程 6月2日(土)・3日(土) 各午後3時開演

会場 文京シビックホール 小ホール

(地下鉄後楽園駅・春日駅)

主な演目 七つの水仙／遙かなるアラモ／500マイルズ／グリーンフィールズ／花はどこへいった 他

料金 6500円 全席指定席

2008年に結成50周年を迎えたザ・ブラザーズ・フォア。美しいハーモニーにのって「あの歌」がよみがえる。

問合せ トゥモローハウス 03-5456-9155

◆川崎市民劇場 第308回例会

劇団 NLT 公演 佐賀のがばいばあちゃん

日程・会場 6月9日(土) 幸市民館

11日(月)・12日(火) エポック中原

作 島田洋七／脚本 青木豪／演出 釜紹人／出演

阿知波悟美・弓澤公望 他

昭和33年、8歳で親元を離れ、広島から母親の故郷・佐賀に預けられる少年・昭弘は、そこで祖母に育てられる。この祖母こそ、厳しい終戦期に7人の子どもを抱えて生き抜いた、がばいばあちゃんだった。

申込み・問合せ 溝の口事務所 044-455-7950

川崎事務所 044-244-7481

◆2012年第54回川崎母親大会

日程 6月9日(土) 10:00～16:10

会場 川崎市高津市民館(ノクティ2 11F、12F)

分科会 子ども・子育て「新システム」を考える／日本軍「慰安婦問題」と女性の人権／川崎市政を考える／放射線について学ぼう／医療・介護問題 他

全体会 記念講演「原発と私たちの暮らし」 郡山総一郎さん(フォトジャーナリスト)

問合せ 実行委員会 事務局(照井)

電話 044-888-7110

◆荒馬座創立45周年記念公演

未来は祭りの輪の中に

日程 6月9日(土) 午後6時30分開演

会場 パルテノン多摩 大ホール(京王線・小田急線・多摩モノレール「多摩センター」駅)

入場料 指定席 大人4000円 子ども3000円

自由席 大人3500円 子ども2500円

主な演目 白鳥おどり／江戸のまつり／荒馬踊り／中山太鼓／浦浜の鎮魂歌／虎舞／竿灯 他

問合せ 荒馬座 03-3962-5942

◆コバケンとその仲間たちオーケストラ in 横浜

日程 7月26日(木) 午後6時30分開演

会場 横浜みなとみらいホール 大ホール(みなとみ

らい線「みなとみらい」駅)

入場料 一般3000円 学生1000円 全席指定

出演 小林研一郎／コバケンとその仲間たちオーケストラ／池田理代子(ソプラノ)／村田孝高(バリトン)／瀬崎明日香(ヴァイオリン)／大震災で被災した南相馬の小学生・岩手の高校生(出演者は全員ボランティアによる参加です)

主な演目 歌劇「アイダ」から「凱旋進行曲」／チゴイネルワイゼン／パッサカリアから「夏祭り」／交響詩「フィンランディア」／序曲「1812年」 他  
問合せ 神奈川芸術協会 045-453-5080

◆響 ファーストライブ YARAIYA

川崎太鼓仲間響20周年記念コンサート企画

日程 7月29日(日) ①13:00 ②16:00 開演

会場 川崎市アートセンター(小田急線「新百合ヶ丘」駅)

入場料 一般2000円 小中高生1000円 全席指定

主な演目 YARAIYA／金浦神楽／荒馬／水口囃子／体音／Get Back III／二足歩行／秩父屋台囃子 他

問合せ 080-1038-9089(吉田)

080-2043-8175(玉田)

◆川崎市民劇場 第309回例会

テアトル・エコー公演 フレディ

日程・会場 8月6日(月)・7日(火) エポック中原 18日(土) 幸市民館

作 ロベール・トマ／演出 上原一子・小川こういち／出演 安原義人・田村三郎 他

天才クラウン・フレディ率いるサーカス一座。金策に走るフレディには、パトロンが殺され殺人犯の疑いが……。

■文化の仲間ギャラリー■

小野寺 晃◎

